

2年進路講演会(2009年6月5日)

大学入試の現状と対策(2年の今、何をすべきか)

講演者 ベネッセ 日高さん

これは講演の要約ですが、役立つ資料もあるのでぜひ当日のレジュメをご覧ください。

いろいろなところで講演会をやっているが、まずこの質問を聞いている。次の二つの選択肢があったらどちらにしますか。

家が近くて確実に合格できる大学

家から遠く、合格には努力が必要だが、ぜひ入学を希望している大学

(保護者に手を挙げてもらったところ、今回はが多かった)生徒たちに進路選択でもっとも影響を受けたのは何か聞いたところ、保護者という声が多かった(ある高校のアンケート)。そうした点で、親の影響は大きい。ぜひお子さんと一緒に考えてもらいたい。

大学入試環境クイズ

Q1 大学入試は高校入試と基本的な考えは同じだ。 A x 中学校を出れば皆高校に入る。しかし、高校卒業後の進路は多様であり、それによって対策も変わってくる。

Q2 子どもへはがつんと強く言い切ることが何事にも重要だ。 A x 自然といいたくなることもあるが、正しい知識を吸収してからにした方がいい。「そんな難しい大学無理じゃない」「そんな大学に行ってどうするの」など注意。

Q3 受験人口はピーク時に比べて、4割減少している。 A 1992年が一番多く、125万人それが75万人に減少している。現在の大学についての問題の多くはここに端を発している。大学の定員自体は今でも少しずつ増えている。

Q4、5 センター試験の受験生はここ数年大きく減少している。 A x センターはもともとは国公立の一次試験だったが、私大も参加・受験できるようになり、参加私大は増えている。推薦ではなく一般受験者は、私大専願でもセンター試験を受験するようになった。

Q6 教科書をマスターしていれば、大学入試は何とかなる。 A 大学受験=特別なものではない。予備校なども高校の授業を深める観点ならばプラス。センター試験は100%教科書レベルである。だから、定期試験ができればセンターにつながる。とはいえ、3年の夏休み以降は志望校に特化していくが、下級生の頃は教科書・授業が重要。

Q7 次の大学で、現在も名前が残っているところの一つもない。東京都立大、東京商船大、武蔵工業大 A 年々大学をめぐる情勢は変わっている。体育大などは以前は体育教師の志望が多かった。今は多様化しており、難易度が高まっている。薬学、以前は難易度が高かった。しかし、六年制になり受験者は減った。国際とか情報とかが人気だったが、もう落ち着いた。福祉やバイオも人気だったが、やさしくなった。テレビの影響なども大きい。

Q8 私立大学の一般入試で、実質倍率2倍以下のものはないので、推薦が確実に有利だ。 A x 一般が難しいところは推薦も難しく、推薦がやさしいところは一般受験もやさしい。

二極化する大学入試

ベスト20私大で全私大志望者の41%を占める。私立大学は全国で550あり、残りの530大学で59%の生徒を分け合う厳しい状況。ベスト20 早慶、MARCH、日東駒専など

日東駒専の難易度

人気のある中堅私大だが、受験生の減少で入りやすくなった。日大経済学部など、90年には偏差値46~58のレベルで9%しか合格できなかったが、08年には40%入れるようになった。現在の景気後退 地方の人が東京の大学を受験しないなどで、この傾向は続く。目指した人が勝ちという状況である。

最近の生徒像

安短といわれる。入りやすい大学、近い大学、早く決まる大学を目指している者が多い。コンビニ進路ともいわれる。保護者にもそういう傾向があるという。精神的、経済的負担はあるものの、この逆の選択もありうる。

進学後の問題

中退者が増えている。全私大で、55000人だという。入ってみたら全然違って、やりたいことができない、などの声がある。入学には100万円以上かかる。よく考えた方がいい。友だちが行くから行くという者もいるが・・・？。

指定校推薦と公募制推薦の違い

推薦のメリットは、一番は安上がりなこと。受験料は1校35000円で、予備校の費用（冬期講習や直前講習もけっこうかかる）なども、ばかにならない。デメリットは、本人の学力にふさわしくない場合もあること。MARCH、日東駒専などの人気大学は一般で人が集まるので、推薦の枠は多くない。一般受験の方がやさしいこともある。違いはレジュメを参照。

A0入試

もとはペーパーだけでははかれない学力を見ようということだったが、現在は学生の早期確保が目的である。推薦全体、第一志望だったらよいと思うが、よく話し合ってもらいたい。

大学入試を正しく理解する

この会場は2年だから、これからの努力の余地が大きいので、ぜひ第一希望を目指して頑張ってもらいたい。やさしくなった挑戦、複雑方針を絞る、早く志望校を絞る。推薦は評定平均値で決まるから学校の授業が大切。ただし、一般受験も学校の授業の大切さはまったく変わらない。基礎がとても大切である。大学受験にフライングはない、早く始めることである。

保護者の役割

学力が高い層ほど、保護者がふだんから注意することは、自宅での生活習慣。これをしっかりさせることがきわめて重要。学力下位層ほど、勉強のことで注意するケースが多い。保護者として注意すべきことは、朝ごはん（学力の高低は明確に相関）、三点固定（起きる時間、寝る時間、勉強を開始する時間）、いつ寝ているかわからない生徒は必ず学校で寝ている。家庭学習の習慣化。クラブなどで時間がなくても、わずかな時間でも家庭学習することがきわめて重要。家庭でもその時間が来たら静かにするなど協力できる。

人気大学の合格者は、週に何時間勉強しているか。

MARCH（明、青、立、中、法）・・・週に12時間 平日90分、休日150分

日東駒専 ・・・週に8時間（2年くらいまで横ばいで、その後伸びる）

早慶 ・・・週に16時間（2年になる頃から伸びる）

難易度の高い大学ほど、早期に勉強時間が増えていく。

同じ内容、難易度でも、学費が年に20万円くらい違うことはめずらしくない。子どもはあまり考えないので、親が考えてやってほしい。